

ALL STAFF

Vol.48
2022.04

オールスタッフニュース

オールスタッフ & ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズの広報誌

News

今 陽子さん

いずみたく没30年メモリアル企画 ぼくたちの音を楽しむ ～いずみたくと中村八大の歌物語～

今 陽子インタビュー

『いずみたく没30年メモリアル企画ぼくたちの音を楽しむ～
いずみたくと中村八大の歌物語～』開催によせて

取材・構成 濱田高志

— 今回、いずみたく、中村八大という日本を代表する作曲家の作品を取り上げた音楽会に出演されますが、お二人との関わりについて伺えますか。

今 私にとって、いずみたく先生は師匠です。いずみ先生と会って、お話ししたり、その場で歌って聞いていただくうち、「まだまだ下手だけど、いいものを持っているから、レッスンを積んで、頑張る気ある?」と言われて、上京しました。中学2年の2学期からは、東京の学校に転校して、日暮里にあったいずみ先生のご実家で、先生のご両親に育てられたんです。ですから、ただの弟子ということではなくて、いわば家族同然で、私は“いずみたくファミリー”の長女だと思っています。一方、八大さんといえば、私が小さい頃にNHKで放送していた『夢であいましょう』は、大好きな番組だったんです。「今月のうた」では、梓みちよさんの「こんにちは赤ちゃん」とか、九重佑三子さんの「ウエディングドレス」、もちろん北島三郎先輩の「帰ろうかな」とかが流れていて、まだ、私がプロの歌手になる前に見聞きしていた曲で、どれもよく知っています。だけど今回のような形で八大さんの曲を歌うのは初めてですね。

中村八大



— お二人の作品は、発表から数十年の時を経ても、いまだに歌われています。最大の魅力は何だと思えますか。

いずみたく

今 何と言ってもシンプルで美しいメロディだと思います。私が最近プロデュースしていただいているジャズギタリストの吉田次郎さんがこうおっしゃっていました。「いずみたく先生のメロディは本当に素晴らしいので、これをどう調理すればいいか、いつも重荷に感じて、すごく緊張する」って。シンプルだから、どんな風にスパイスをかけてもいいし、どんな風にでも調理できるんです。



だから「恋の季節」1曲だけでも20種類ぐらいのヴァリエーションがあるんじゃないですか。以前、本條秀太郎さんの三味線で“和”にしたことがあるんですけど、曲のメロディがクラシックにも和風にもジャズにもラテンにもなるってすごいことですよ。同じように八大さんの曲もメロディが美しくて、やっぱり素晴らしいメロディメーカーだと思います。

— 今回、渋谷毅さんの伴奏でも、お二人の曲を歌われるそうですね。

今 その昔、渋谷さんに書いていただいた「恋人の讃歌」って歌が、それまでのピンクラのイメージと全然違って大好きでした。あと由紀さおりさんの「生きがい」も渋谷さんが書かれた曲ですよ。あの曲も私大好きで、昔からいずみ先生のメロディを渋谷さんがアレンジすると、ちょっと洋物っぽくなって、すごくカッコ良かったですよ。もちろんピアノも。だから今からとても楽しみにしています。今って、ヒットソングの作られ方や在り方が、私達の時代とは随分と変わりましたよね。私たちの時代は作曲家と作詞家の先生、そこにアレンジャーがいて、そうやって皆でひとつの楽曲が作られていましたから、詞も曲もアレンジも全部が大事でした。なかでも、私は特に詞のフレーズに惹かれていました。岩谷時子先生の書かれた「恋の季節」に出てくる“夜明けのコーヒー”なんて、すごくシンプルだけど、大人っぽくて、おしゃれで素敵で。(次頁へ続く)



ミュージカル「さよならTYO」より



— 今回、いろんな方々と共演されますが、尾藤イサオさんとも同じステージに立たれますね。

今 尾藤さんとは、これまでミュージカルで何度もご一緒しましたし、亡くなられた西城秀樹さんをメインに開催した「同窓会コンサート」でも、一緒に全国ツアーを回りました。要するに盛り上げ隊なんですわ私たちは(笑)。尾藤さん独特のしゃがれた声は本当に素敵で、わかりやすく言うはずばり“ロックンローラー”なんです。

— 歌手や役者を目指す後進にエールを送るとしたら、どんな言葉をかけられますか。

今 もし自分が歌や踊りやミュージカルが本当に好きだったとしたら、やっぱり好きなことイコール自分の進む道、得意分野だと思うんですよ。だから、好きなことを一生懸命やる。何かひとつでもいいから目標を決めて、そこに向かって自分を持っていかないと。何の目標もないと人生つままないでしょう。私は今まで70年生きてきて、芸能界に55年いて、こんな長くやってこられたのは、ひとえに好きだったからです。辛いこともいっぱいあったけど、好きなことをやっていくためには努力もするし、頑張れるじゃないですか。今は、努力・忍耐・根性なんて固い言葉は敬遠されますけど、とにかく自分の好きなことを見つけて、好きなことに向かって一生懸命生きて欲しいと思いますね。

いづみたく没30年メモリアル企画

ぼくたちの音を楽しむ

〜いづみたくと中村八木の歌物語〜

2022年4月23日(土) 17:00開演
24日(日) 11:30開演 / 15:30開演 博品館劇場

【演出】鷗山 仁
【音楽監督・演奏】渋谷 毅 谷川賢作 吉田さとる
【構成台本】大谷美智浩

いづみたくソングブックCD 発売決定!

作曲家いづみたくの没後30年を記念し、ビクターよりCD5枚組+DVD1枚のボックスが発売されます。初音盤化・初CD化曲を多数収録した本格的な作品集にして決定盤です。160ページ余のブックレット、そして特典としてイツフオーリーズのライブ映像も収録。

【価格】 5CD+1DVD(トールBOX仕様) 15,400円(税込)
 ■Disc1:CD ヒットソング(ヒット曲を中心に選曲) ■Disc2:CD レアリティソング(自薦曲を中心にシングルB面やアルバム中の楽曲集)
 ■Disc3:CD テーマソング(テレビ・映画・ラジオ番組関連楽曲) ■Disc4:CD CMソング
 ■Disc5:CD 舞台・ミュージカルソング ■Disc6:DVD イツフオーリーズのライブ映像
 【発売日】 2022年4月20日(水)
 【発売元・販売元】 (株)JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント

みゅーじかる「死神」より(左 西村 晃)



私自身、これからもまだまだ現役で頑張りますけど、今後は、次の世代に伝承していくということも意識してやっていかなきゃいけないなと思っていて。若い人と一緒になって歌ったり、自分が指導していくなかで、「ああ、そうか、こういうこと忘れてたな」とか、自分も教えながら勉強してるんです。日本ってすぐ“懐メロ”という言葉を使うでしょう。そもそも日本の音楽の世界では“スタンダード”というものへの理解が希薄なんですよね。だからこそ、私はそれらをスタンダードとして歌い継いでいきたいし、お二人は日本が生んだ、誇るべき二代作曲家です。今回、そのお二人の歌を、歌わせていただけなのは、本当に光栄なことだと思います。

[2022年2月24日ホリプロにて]

パーティにて
いづみたく(右)と

【出演】今 陽子、尾藤イサオ、ラプリーサマーちゃん、ベイビーブー
普天間かおり、大須賀ひでき
福沢良一、山口正義、坂口阿紀
イツフオーリーズ

茂木沙月、明羽美姫、藤森裕美、中山 圭、吉田 雄
水谷圭見、石川裕梨、大川 永、矢野叶梨、向谷地愛

【演奏】えがわとぶを(B.)、河崎真澄(Drs.)、堀江洋賢(G.)

【入場料(全席指定、税込)】前売 7,500円
U25 5,000円(25歳以下、要当日年齢証明)

【お問い合わせ】オールスタッフ03-5823-1055(平日11:00~18:00)

ミュージカル

遠ざかる ネバーランド

2022年3月23日(水)~27日(日) 俳優座劇場

【脚本】ほさかよう(空想組曲) 【演出】渋谷真紀子 【音楽】吉田さとる

【出演】徳岡 明、神田恭兵、工藤広夢
青柳塁斗、金村 瞳、鈴木彩子、東城由依、刀根友香
近藤萌音、杉尾優香、森山真衣/川原一馬、藤森裕美

【入場料(全席指定・税込)】前売 6,500円/当日 7,000円

※各種割引あり。詳細は公演サイトをご確認ください。

<https://www.allstaff.co.jp/neverland2/>

2018年にイツフオーリーズがミュージカル化した「遠ざかるネバーランド」が、出演者を一新し、新演出にて間もなく再演の幕が開きます。初日を前に主人公・ウエンディ役を演じる徳岡明に意気込みを聞きました。

初演はエコー役で出演し、今回はオーディションでまさかウエンディ役に選んで頂けるとは思っていなかったので正直驚きの方が強かったです。初演では、入団して初めての主催公演だったので、個人的な“重み”もありました。今回は主役として作品を背負っていくという、また違った重みを感じています。不安もありますが、その中でも役を深めていけるように挑戦をしながら楽しみたいです。この物語の一番の見どころは一幕と二幕の落差だと思います。一幕序盤はファンタジーの世界を全面に出していきますが、ラストの衝撃的なシーンを経てそのまま二幕に繋がっていきます。また、全ての世代に刺さるメッセージ性と誰もが一度は悩んだであろう苦悩に共感出来るかと思います。ウエンディとしてどうして空を飛びたいのか、真摯に向き合い意志を強く伝えたいです。ウエンディのもう一つの側面である上田いづみは、根が暗いと思います。実は私も同じなので、シンパシーを感じています。強がりな部分、負けず嫌いな部分。自然といづみと同化できそうなのでそのままの等身大の自分を持ちつつ、いづみと重ね合わせていければと思っています。

ミュージカルリーディング「洪水の前」

12月に新演出で公演するミュージカル「洪水の前」をリーディング形式にてトライアウト上演。各回限定50名、お見逃しなく。

4月10日(日) 14時開演(A) / 18時開演(B)

アレイホール 東京都世田谷区北沢2-24-8下北沢アレイビル3F

【出演】
森 隆二・吉田 雄・鈴木彩子・宮田佳奈/ラサール石井
(A)明羽美姫・東城由依・刀根友香・杉尾優香・神野紗瑛子・松本裕子
(B)茂木沙月・矢野叶梨・向谷地愛・近藤萌音・成観礼・森山真衣・石井董

【演奏】森 亮平(Pf.)

【演出】鷗山 仁 【振付】川西清彦 【音楽監督】山口正義・吉田さとる

【入場料(全自由席・税込)】前売 3,500円

【ご予約方法】各回50名様限定。3月10日よりオールスタッフにて受付いたします。詳しくはお問い合わせください。



写真 日高仁

演出の渋谷真紀子さんは、海外でも幅広く活躍されている方なので、どのように作品や稽古場を作っていく方なのか気になっています。稽古が始まる前にディスカッションを何度かやって頂き、私たちにも作品に対する強い思いが全身で伝わってきます。初演を超えられるよう、最高の作品にしたいと思っています。

今回、客演で少年役を演じる神田恭兵さんの舞台は何度か拝見した事があります。作品に愛情を持ち一緒に創り上げていく方なんでしょうなと思っています。

青柳塁斗さんの第一印象は“簡単には人を近づかせないぞ”というオーラを身に纏っている感じでした。内に秘めたミステリアス感があって、そこに飛び込んでいきたいくらい、目力が強いです。

工藤広夢さんは、話しやすくして気さくな方です。稽古場のムードを作ってくれて、年齢も近いので根暗な私でも打ち解けられそうな方です。

川原一馬さんはとにかく懐が深く、カッコいい。初めてお会いした際、ネバーランドからそのまま飛び出してきたかのようなフック船長がその場にいました。

初演では、自分なりに考え尽くし、達成感がありましたが、改めて脚本を読むとその時に感じたこと以外を感じる事ができたり、新たな解釈が出てきたり。台本の読み方一つで、作品に対する捉え方が人それぞれ違うということを楽しんでいます。舞台上では、物語が進むにつれリアルな心情の変化を思い切り出していきたいと思っています。魅力的な客演陣に囲まれ、カンパニー一同素敵な作品を創っていききたいと思います!

ミュージカル「てだのふあ」

沖縄と神戸を舞台に小学六年生の“ふうちゃん”の目を通して、人々の心の交流を描いていきます。お母さん役に普天間かおりを迎え、全国公演を前にルネこだいらにてプレビュー上演をいたします。

9月 2日(金) 19時開演 / 3日(土) 14時開演

ルネこだいら中ホール 東京都小平市美園町1-8-5

【出演】
普天間かおり・山野史人(劇団青年座)・石井愼一(東京ヴォードヴィルショー)
まいど豊(東京ヴォードヴィルショー)・嶋田翔平(劇団青年座)
明羽美姫・藤森裕美・浅川仁志・吉田 雄
加藤木風舞・矢野叶梨・向谷地愛 ほか

【演奏】
吉田さとる(Pf.)・えがわとぶを(B.)・上原なな江(Drs.)

【前売開始】7月予定

【原作】灰谷健次郎(「太陽の子」角川文庫刊)
【脚本・作詞】ラサール石井 【演出】鷗山 仁 【音楽】吉田さとる

おジャマします! となりの稽古場

#20 人形劇団ブーク

レポート 山川優海

1929年に川尻東次らにより創設。舞台での活動を行う「劇団ブーク」とテレビなど映像での活動を行う「スタジオ・ノーヴァ」、劇場の管理運営を行う「ブーク人形劇場」の3部門からなる。

1971年に建設されたブーク人形劇場が50周年を迎えたということで、記念フェスティバルの真っ最中。なんと観劇後に劇場でお話を伺うことに! 心待ちにしながら取材の日を迎えました。劇場へ到着すると、沢山のイラストや文字が刻まれた建物がお出迎え。足を踏み入れると所々に人形が飾られていて、充滿する楽しく温かな空気にワクワクが倍増! 階段を下り、天井高く心地よい広さの客席へとたどり着きました。ここで『現代版・イソップ「約束…」』を拝見。表情が変わらないはずの人形がいろいろな表情をしてそこに生きていて、とても惹き込まれました。

終演後お話を伺ったのは『現代版・イソップ「約束…」』脚色・演出の井上幸子さんと出演・舞台監督の柴崎喜彦さん。資料として頂いた機関紙『みんなとブーク』を見ると、稽古場からトイレの場所まで細かく記載された手書きの平面図イラストが! 何だか行った気分になりました♪稽古をする場だけでなく、セットや人形づくりをするアト

リエも完備。人形劇が創られていく全ての過程を見ることが出来るので、いつか実際に行きたいと強く思いました。ブーク人形劇場のある地域は本来、劇場を建設出来ない場所だったようですが、様々な人の協力のおかげで特別に許可があり、現在も維持出来ているそうです。劇団員だけでなく劇団を応援する人、人形劇を心待ちにする人、沢山の人の"思い"が詰まった場所。足を踏み入れた時に温かさを感じた理由が少し分かった気がしました。建物に刻まれていたイラストや文字は建設当時の劇団員が力を合わせて彫ったものなのだとか。「仲間というものへの思いが強いブークイズムがどの年代の劇団員の中にもある」と柴崎さん。「たとえひとりになっても私は歩みをやめない。新しい仲間はずり集まってくる。ブークがやろうとするのはそのような人形劇の仕事だ!」という創設者 川尻東次氏の"思い"が今も変わらず受け継がれているからこそ、90年という歴史が紡がれたのだと感じました。



▲メンテナンスを繰り返し25年も活躍している人形たちとともに。



▼ブーク人形劇場誕生50周年記念フェスティバル



柴崎さんの人形の芝居のつくり方のお話がとても興味深く、もっともっと聞いていたかったです。



蔵前MAPをつくろう

K-FRONTビルから浅草方面へしばらく歩くと見えてくる"浅草シルクプリン"の文字。様々なメディアで紹介され、計3軒の専門店を浅草に構える人気のプリン。今回はその発祥のお店でもある『テスタロッサカフェ 駒形』をご紹介します! なんと元々はイタリア料理店だったのだとか。そこで「料理以外にも何か目玉を」と考えた際、スイーツに強かったシェフと先代のオーナーがプリンに行き着き、始めたのがキッカケだそうです。シルクのように滑らかなプリンはたちまち人気となり、専門店をオープンするまでに。現在はプリンやケーキのテイクアウトのほか、カフェでお食事もお楽しみ♪営業統括の海野さんのおすすめ商品はチーズケーキのような風味のチーズプリンと浅草「磯村政次郎商店」のねりごまを使用した黒ごまプリン、固め食感のクラシックプリン。おすすめ全てを頂きましたが、どれもとっても美味しい! 販売されている全てのフレーバーを制覇したいです!

浅草を飛び出し、銀座博品館に『銀座シルクプリン』もオープン。銀座は浅草よりも上質な素材を使用し、実際にシルクをパウダー状にしたものが入っているためさらに滑らかなのだそう。いずみたく没30年メモリアル企画『ぼくたちの音を楽しむ』で博品館劇場を訪れた際にはぜひこちらもご賞味あれ。(山川優海)

テスタロッサカフェ 駒形店
東京都台東区駒形2-6-1
電話 03-3843-7771
営業時間 11:00~翌1:00 定休日 日・祝
※時短営業中は11:00~20:00



海野さんと沢山のプリンの前で一枚。春は桜、夏はマンゴー、秋冬は芋栗カボチャなど季節限定のフレーバーにも心奪われます。

触った感じはしっかりめ、口に入れるとたちまちトロトロなプリン。何個でも食べられそう。

音楽出版

オールスタッフでは、いずみたくの楽曲をはじめとする著作権管理も事業のひとつです。最近、使用された「いずみたく楽曲」をご紹介します

いい湯だな

2021年11月20日~
2022年 1月28日~

LINEMO ラインモドモン「ずーっとだよ」篇(TV・CM)
サントリーBoss「BOSS x ザ・ドリフターズ 全員集合」篇(TV・CM)

見上げてごらん夜の星を

2021年11月24日~

ヤマトホールディングス「医療」篇「小売」篇(TV・CM)

太陽がくれた季節

2021年 3月 9日リリース

渡辺美里「スタジオライブ うたの木」(Blu-ray)

ふれあい

2021年11月~

Hulu ドラマ「PEN 15(ペン・フィフティーン)シーズン2」(劇中歌)

夜明けのうた

2022年 1月13日~16日

舞台「夜明けのうた」(主題歌)

手のひらを太陽に

2021年12月11日リリース

MELT4「It's Amazing!!」(CD)



昨年11月末、文化芸術による子供育成総合事業(芸術家の派遣事業)で、鹿児島県の小学校へワークショップに行ってきました。離島3校の実施で、中には全校生徒4名の学校もあり、講師が3名、先生も含めると大人の人数が多い学校もありましたが、どの学校も子どもたちも先生方も一緒になって演じていました。この事業のコーディネーターの入本敏也さんは、NPO法人鹿児島子ども芸術センターで「鹿児島の離島の子どもたちに文化芸術を届けよう」という活動をされています。イツフォーリーズはワークショップや公演などおおよそ15年のお付き合いになります。移動時間では、入本さんといろいろなお話が出来ました。子ども劇場の活動や他のたくさんの芸術団体ともお付き合いがあるなか、敢えてイツフォーリーズに毎年のように声をかけてくださることについて、入本さんはこのように話して下さいました。「フォーリーズとの出会いの最初の頃、ワークショップに参加している子どもがふざけてみんなの邪魔をしたことがあったのです。その時に講師の一人が子どもを真正面から叱ったのが印象的でした。叱ることに対して様々な意見もありますが、僕はごまかさなストレートな姿勢に、好印象を持ったのが始まりです。ワークショップだけでは

なく、フォーリーズの作品にも同じニュアンスを感じています。作品に真摯に向き合う、ごまかさない。「ルドルフとイッパイアッチーナ」や「ゲゲゲの鬼太郎」も直球、ストレート。「ゲゲゲの鬼太郎」の曲、♪頑張らなくてもいいんだよ、ってこんな時代に歌ってくれるなんて、なかなかないと思います。僕はすごい技術のダンスを踊って、参加した子どもたちがあつという間に上手になってというようなワークショップには興味がないです。今日もそうでしたが、ダンスや歌を通して子どもたちの表情が自然と変わっていく、そういうワークショップの方が大切だと思っています。それとフォーリーズのようなストレートな大人に触れることが子どもたちにとって必要ではないかと思っています。だから15年の付き合いになるんじゃないかな」

ワークショップは心と身体の開放や、自然なコミュニケーション、そして子どもたちには新しい世界や可能性を見つけてもらえるのではないかと私は思っています。そして俳優である私たち講師は、毎年勉強会を以て、プログラムや言葉の使い方、かけ方などなど、ブラッシュアップしています。「真真正面から子どもに向き合う」今回の入本さんの言葉は私にとって1つの指針になりました。(米谷美穂)



イツフォーリーズ創立45周年記念

燃えてる夢と命を
残らず使った劇団創世記を語ろう

書記局座談会

スプヤん 稽古場より



1977年に、いずみたくによって設立された「いずみたくフォーリーズ」(現ミュージカルカンパニー イツフォーリーズ)は今年で創立45周年を迎えます。そこで、今号と次号のオールスタッフニュース、そしていずみたく没30年「ぼくたちの音を楽しむ」の公演プログラムにおきまして、劇団45周年の特集を企画いたしました。

(司会 森隆二 / 構成 坂口阿紀)

—— 18期生の森隆二です。今日は劇団フォーリーズだったみなさんに、僕らがほとんど知らない、いずみたくと共に歩んでいたフォーリーズの14年についてお伺いしたいと思い、当時書記局という劇団の中核にいた方々にお越しいただきました。まずは皆さんが劇団に入った経緯と何期かをお聞かせください。

大原晶子 私は3期です。日本女子体育大の舞踊科に在学していた頃、アルピン・エイリー舞踊団が大好きで、これからはダンスを創る人は、演劇や音楽が分かるようでないだとダメだと思い、勉強できる場所を探していたところ、父の知り合いがここを教えてくださいました。入ってみたらモノを創るエネルギーに溢れた人たちがいっぱいいて、様々な作品を知るうちに、これってダンスだけをやっているより楽しいじゃないかなって思いました。だから、イズミミュージックアカデミーに入ってからミュージカルに触れて、今に至ります(笑)。

佳田亜樹 私は7期で、アカデミーには歌の勉強をしたくて入ったんです。大学に通いながら夜間に通えるところを探していて、いずみ先生がやっているからというわけではなかった(笑)。劇団公演の『パジャマゲーム』を観て「お!」と思い、その後、1年先輩である小川美也子さん達の期の卒業公演『ゴッドスペル』を観て、劇団に進みました。いずみ先生の作品を見たのは劇団に入ってからなんです。つかこうへいや自由劇場が大好きな演劇少女だった私が、ミュージカルの道に進んだのはアカデミー講師だった風早美樹先生(ミュージカルアドバイザー)の存在が大きかったかもしれません。毎週土曜日にやっていた『ミュージカル教室』は私に大きな影響を与えました。

小川美也子 私は6期です。演劇を学びたくて昼は早稲田大学の演劇科で学び、夜は舞台芸術学院に通っていました。舞台芸術学院を卒業後、文学座の夜間を受けたら落ちてしまい、どうしようかなと思っていたところに、紀伊国屋ホールで『おれたちは天使じゃない』を観まして。それでフォーリーズに入ろうと思ったんです。

—— 皆さんミュージカルをやりたくてフォーリーズに入った人はいないの。

一同 (笑)。

ロックランドより

パジャマゲームより
上田 実 劇団創立メンバー。旗揚げ公演『悪魔になってみませんか』をはじめ、フォーリーズ屈指のダンサーとしてほとんどの劇団作品に出演。現在はフリーランスで、舞台監督や演出部を務めている。



上田 実 俺は1期で、大学時代に芝居を始め、東京労演にも入っていて、その例会で西武劇場の『おれ天』の初演を観たの。それで芝居よりミュージカルの方が面白いなと思って、日本ミュージカルタレントスクールに入りました。そこでダンスの家城比呂志先生と出会って、ダンスが好きになりました。でも、その頃はミュージカルをやっている劇団がなくて、NLTの養成所に入った頃にちょうどいずみたくがミュージカル劇団を作るというのを知って、「あの『おれ天』だ!」と思い、オーディションを受けました。俺はミュージカルをやりたいから、ちょうどいい時に劇団が出来たんだよね。

茂木沙月 私は3期生で、高校の時は演劇少女だったけど、ダンスは好きで松竹で講師をしている先生に習っていました。その先生に「演劇やりたいんだけど」って話したら、六本木にいずみたくが主宰しているところがあるって教えてくださいました。アカデミーの専門部上がる時に、いずみ先生が奨学金を出してくれて、その代わり入団したら2年間はちゃんと劇団員をやりなさいと言われ、それが……ずるずると……今に至ります。

—— 劇団に置かれていた『書記局』について教えてください。

茂木 劇団の雑務を執行するために、管理部、教育部、制作部、広報部、映放部、事務局などがあって……。

上田 いずみ先生がお前たちで運営していけって言って、作られたんだよね。

小川 最初、私は、広報部の副部長で時々書記局に行き、そのあとは制作部。

茂木 私は管理部で、その後、劇団で『アンパンマン』の営業に回ることに、その割り振りを考える人が必要になって映放部が出来て映放部に。

大原 私は教育部の部長で、2代目部長が佳田亜樹。

佳田 大原さんが部長の時、副部長でそのままスライド。

—— 書記局もやって、自主公演もやって、皆さんは生活出来ていたんでしょうか？

小川 風早先生の教えが「30歳まではミュージカル役者は一人前じゃないから親を頼れ」と。

茂木 『親のすねはかじれるだけかじっておけ』ってオールスタッフの石岡三郎さんも言っていました。

小川 私はそれを真に受けて親に言っていました。

大原 お金はなかったよね。

佳田 劇団の洗濯機で洗濯していました(笑)。

上田 劇団員時代は毎日のように劇団に来なきゃいけないかったし、バイトもそんなにできなかったからね。

歌麿より



—— お金はなかったけど、皆さんの原動力は何でしたか？

大原 日本のミュージカル自体が創成期だったから、創ることにエネルギーが溢れてて、それに私たちも飲み込まれていたのかな。

上田 『おれ天』、『死神』、『洪水の前』……。すごくいいものを創っているっていう自負があった。いずみ先生と藤田敏雄先生が引っ張ってくれて。お金がなくても、続けていける原動力だったよね。

小川 『歌麿』をフォーリーズ、音楽座、薔薇座の3劇団合同でやる事になり、話が進むと各々創り方が全然違うってことが発覚して。他の2劇団が藤田先生の台本を読んで、これはどんなドラマツルギーになっているのだと。うちの劇団はまず歌稽古をしてから立ち稽古に入っていくのだけれど、他は立ち稽古の中で歌を入れていく歌入り芝居的な感覚で創っていて。結局、その企画は破綻したのだけれど。でも、そこで「やっぱりミュージカルって音楽が要にあるものなんだ」という事が私はすごく腑に落ちた。歌稽古から入り、プロットがあって曲が作られて、それが全体でどんな形に持っていくのかという創り方を先生達がちゃんとやっていた。1からオリジナルミュージカルを創る過程を垣間見て来た私達には、それが脈々と刻まれている。今はどの作品も歌稽古から入るなんて当たり前なんだけど。

佳田 作曲家が作った劇団というのがありますよね。音楽が、ちゃんと真ん中にある。だから好きだったんだろうな。

上田 稽古場に先生がずっといたしね。歌詞が聞こえないとか音楽をもっと立てたいとか、その場ですぐに譜面を変えて作れたし。

茂木 しかもそれを2ヶ月半くらいかけてたもんね。



パジャマゲームより

大原晶子 『見上げてごらん夜の星を』『おれたちは天使じゃない』『ファールおじさんの昆虫記』などに出演。現在、NHK『おかあさんといっしょ』の振付、コンサートの演出などで活躍。また、イツフォーリーズの作品ほか、オリジナルミュージカルの演出や振付を数多く手掛ける。

悪魔になってみませんか より



小川美也子 『悪魔になってみませんか』『ロックランド』などに出演。『歌麿』アメリカ公演ではワシントンポスト紙に歌声を絶賛される。現在は演出、演出助手、歌唱指導として活躍。また、舞台芸術学院にて後進の指導にもあたっている。

—— いずみ先生と皆さんの関係ってどんな感じだったんですか。

大原 いい意味で「勝手にやれ」って感じでした。若い者は若い者でやりたいことやれて。いずみ先生と私たちが遠いようで近かったと思います。

上田 よく飲み連れて行かれたね。

大原 私は当時、演出や振付の助手をやるのが結構あって。稽古が終わった後、必ず先生たちにジョンカナヤに連れて行かれ、そこでずっと芝居の話や役者のダメ出しをしているの。わたしがそれをメモしようとする「紙になんて書くんじゃない、頭で覚える」って。翌日、稽古場で「昨日の話みんなに言ってみる」となるんだけど、私が忘れてる事もあって「おい、あれもあっただろ」って。じゃあ自分で言ってよ!って(笑)。

小川 いずみ先生とはファミリーコンサートの思い出が多くて、劇団主宰者のいずみたくとはまた違うキュートな面を見られたりもしました。公演先の旅館で、お風呂上がりの先生に会った時、浴衣も脱いだ服も全部手に持っていて。「こんな格好で出ちゃいけないな」って。先生が通り過ぎたら、後ろ姿も何も着てなくて(笑)。



不思議なオルゴール より

—— 最後に、皆さんにとってフォーリーズとは何ですか？

佳田 何かを作る時、“人”がいて、自分が“情熱”を持っていれば、必ず何かできる。それを信じさせてくれて、教えてくれた。

大原 私はゼロの状態でもフォーリーズにきて、自分の核になるものをここで教えてもらったと思います。ここの作品で私の師匠である坂上道之助に出会って、私は振付の世界に行くのですが、フォーリーズがなかったら全然違う人生だったと思いますし、ミュージカルに出会っていたかも疑問です。ここが原点。

小川 演劇に関わる上での転換点ですね。新劇少女だった私の中で、演劇というものがほぼミュージカルに変わっているの。

上田 俺にとっては……フォーリーズはふるさとだね。

洪水の前より

一同 それはそう!(笑)。



茂木沙月 『いずみたくファミリーコンサート』で初舞台。ミュージカル初舞台は『TOMORROW』。ミュージカルカンパニー イツフォーリーズ所属。

イツフォーリーズ活動状況

ミュージカル

遠ざかるネバーランド

3月18日(金)～19日(土) 東京都北区
23日(水)～27日(日) 俳優座劇場

ミュージカルリーディング

洪水の前

4月10日(日) アレイホール

いずみたく没30年メモリアル企画

ぼくたちの音を楽しむ

4月23日(土)～24日(日) 博品館劇場

ミュージカル

洪水の前

12月22日(木)～28日(水) エコー劇場

《演劇鑑賞会主催 例会》

ミュージカル

てだのふあ

9月 2日(金)～ 3日(土) ルネこだいら ※レビュー、主催公演
14日(水) 静岡県藤枝市
15日(木)～18日(日) 静岡県浜松市
19日(祝月) 静岡県静岡市
21日(水) 静岡県島田市
22日(木)～23日(祝金) 静岡県静岡市
24日(土)～25日(日) 兵庫県神戸市
26日(月) 静岡県富士市
29日(木) 静岡県沼津市
30日(金)～10月1日(土) 京都府京都市
2日(日) 奈良県奈良市
3日(月)～ 4日(火) 和歌山県和歌山市
6日(木) 大阪府阪南市

ミュージカル

おれたちは天使じゃない

11月17日(木)～19日(土) 千葉県千葉市
22日(火)～23日(祝水) 埼玉県さいたま市
24日(木)～25日(金) 神奈川県川崎市
27日(日) 千葉県松戸市
29日(火) 東京都立川市
30日(水)～12月2日(金) 千葉県船橋市
3日(土) 東京都北区
5日(月) 東京都板橋区
6日(火)～ 7日(水) 東京都練馬区

140文字内

で

編集後記

雪月花……私はその名の通り、雪山と満月と桜が好きだ。それらと日本酒が隣にあれば、幸せを感じる。美しいもの、美味しいものには人の心と動かす力がある。もっと美と文化と芸術を人々の心に共有できたら、戦争なんでものは世界からなくなると、心から信じていたい。日本人だからこそ。(Y)

いずみたくは、自身が携わったミュージカルは105本と書いていましたが、2016年に実は113本であることが判明。そして今回、いずみたくソングブックの発売にあたっての新発見は、実は124本。そんな豆知識も詰まったCD-BOX。買った人だけトクします。¥160のドリンク97本我慢しても買おうべし。(中島)

■劇団員

茂木沙月・森 隆二・羽羽美姫・米谷美穂・藤森裕美・田島麻子・堀内俊哉・金村 瞳・浅川仁志・中山 圭・大浴ちひろ・大西健次・吉田 雄
水谷圭見・鈴木彩子・石川裕梨・田中愛実・吉村健洋・大川 永・加藤木風舞・福岡美里・宮田佳奈・山川優海・東城由依・藤廣果歩・三谷千季・矢野叶梨
刀根友香・向谷地愛・近藤萌音・成観 礼・杉尾優香・徳岡 明・神野紗瑛子・神澤直也・半澤 昇・藤田朋花・松本裕子
石井 董・尾ノ上彩花・日野七乃葉・森山真衣・岩城風羽・加藤 梓・吉田美緒 / 井上一馬・澤田美紀

■オールスタッフ所属 吉田さとる 坂口阿紀 河本章宏

■ワークショップ講師 今宮多力香

「いずみたくNight」-We Sing Taku's Melody-

昨年12月1日(水)～6日(月)、ライブハウス上野Untitledにて「いずみたくNight」-We Sing Taku's Melody-を行いました。この公演は、コロナ禍において文化芸術活動の自粛を余儀なくされた文化芸術関係団体の活動を支援する「Arts For the Future(AFF)」の助成を受けて開催されたものです。

ライブハウスでの公演でしたが、いずみたくの曲を引き継いでいきたいという思いから、なるべく多くの劇団員に参加して欲しいと考え、藤森裕美、吉田雄、宮田佳奈を中心に日替わりで総勢40名が出演。また、剣幸さん、谷川賢作さん、塚古友梨絵さん、駒田一さん、尾藤イサオさん、大須賀ひできさんもゲストで出演、いずみたくナンバーを披露して頂きました。

構成・演出は、劇団OGの本藤起久子さん。いずみたく愛がたっぷり詰まった「いずみたくあいうえおメドレー」は、歌い出しを五十音順に並べた25分の壮大なナンバーに仕上がりました。AFFの目的である“新しい文化芸術活動のイノベーション”に見合ったライブになったと思います。(中島康江)

音楽劇「ミルクマンの朝は早い」



文化庁、公益社団法人日本劇団協議会の主催による日本の演劇人を育てるプロジェクト新進演劇人育成公演、音楽劇「ミルクマンの朝は早い」を2022年1月26日～30日までこくみん共済 coop ホール/スペース・ゼロにて行いました。弊社は制作として携わりました。ラフカットなどで若手俳優の育成にも力を入れているプラチナ・パーパーズの堤泰之さんに脚本、演出を依頼。'70年代、無気力、無関心ながらも“それなりに”学生時代を謳歌する若者たちを描いた青春群像コメディは、オリジナルの脚本ということもあり、実際に堤さん自身の実体験も織り交ぜた面白い舞台に仕上がりました。また、作曲の吉田さとの音楽も作品の魅力を引き立てました。

幅広く可能性を見いだすためにキャストオーディションを行い、イツフォーリーズからは吉田雄、神澤直也、神野紗瑛子、そして入団1年目の研究生3名も彼女達の新人公演も兼ねて出演いたしました。ほとんどの出演者が当時を知らない中で、それぞれの青春を満喫すべく演技に励み、各自俳優としても得るものがあったことと思います。今回の事業を通して当時の“しらけ世代”から現代の“Z世代”へメッセージが伝わってれば幸いです。(松本峻汰)

オールスタッフニュース Vol.48

発行日 2022年3月31日

発行 株式会社オールスタッフ 〒111-0051 東京都台東区蔵前2-4-5 K-FRONTビル8F 電話 03-5823-1055 FAX 03-5823-1054 <https://www.allstaff.co.jp>

発行人 土屋友紀子 編集・レイアウト 中島康江 執筆・編集 土屋由美/吉田健二/安念 透/松本峻汰・鎌田奈々美・田中みゆき/秦 明子・平澤真帆

執筆 坂口阿紀/イツフォーリーズ(森 隆二・米谷美穂・山川優海)